



板一中だより

2026年10月4日



学びのエリア7年生：132名 8年生：143名 9年生：122名 計397名

板橋区小中一貫教育「板一中小中一貫学びのエリア」（板二小・板六小・板七小・板一中）

2027・令和9年度 10月9日（土）に、80周年記念式典を予定しております。

全国学力・学習状況調査をよみとく ②

校長 伊藤 聡

全国学力・学習状況調査（以下、学調とする。）の都道府県別結果が公表されました。そこで、今年度の板橋第一中学校の学調データの一部を読み解いてみたいと思います。

右上のグラフは、「数学の勉強が好きですか。」という質問に対して、好き・どちらかという回答した生徒が約65%いたことを示しています。東京都や全国の値より好きな人がたくさんいる状況を示しています。その結果の一因として、右下の折れ線グラフの結果になっていると考えています。このグラフは、学調の数学の3年間の結果で、全国、東京都、板橋区の平均点と板橋一中の平均点の差を表しています。少しずつ右上がりになってきており、今年は全国の平均点と同じになったことをよみとくことができます。

「好きこそ物の上手なれ」、好きだからこそ熱中して、自分で工夫や努力をするので、上達が早いということになります。

昨年度から「自律と自立」をめざして、各教科で取り組んできている選択・決定・調整をみなさん自身が行う学習形態でめざしている姿の1つになります。数学を「好き」を育み、数学が「得意」をのばした結果の表れだと思っています。

気になることを1つ。右側のグラフは、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」という質問に対して、当てはまる・どちらかといえば当てはまると答えている人が90%に届いていない状況をしめしていることが分かります。残りの約1割の人は、理由があれば、いじめでもいいと思っていることになります。本当にそうでしょうか。同じようなことは学校の中だと、ちょっとしたことで人をたたき暴力行為に当てはめられるのではないのでしょうか。ちょっと腹がたったから、イラッとしたからという理由で人をたたいたりすることは許されないのです。いじめも暴力も、する側はそのくらいという感覚で行う行為ですが、やられた側は、本人やその保護者の立場になれば理不尽極まりないと感じることを理解しなければいけません。状況によっては命に関わることもあると考えると、認めてはいけないことが分かるのではないのでしょうか。

